

歯学祭を終えて

第25回歯学祭実行委員長（4年） 金井直樹

思えばあれからもはや半年が経とうとしている…僕のほうはあいかわらずいろいろな人にめいわくをかけながら走り回っている

正直な話、僕の中で『歯学祭』は思い出というにはまだ日が浅く、いまでも未消化な記憶にときおり憑かれる。そのとき決まって最初に出てくるのは巨大な壁のイメージ。あとは歯学祭スタッフのいろいろな表情。そしてスライドの断片のような当日の風景。

記憶と違う風景が重なって、違和感を覚えると現実に引き戻される。そんなことはしばしばだ。離人体験に似ている。ぼくは疲れているのかと思うが、そのことを忘れてはいるわけではない。少なくともぼくは精一杯やったと思う。しかしこれは嘘かもしれない次の瞬間に思う。もしかしたら僕はもっとやれたのかもしれない。でも出来なかったのが全て。後悔といってしまうと楽だが。僕は確かにいろいろな人に迷惑をかけた。しかし僕も一生懸命にやった。無茶苦茶した…そう僕には実感が無い。これは本当だ、自身という存在というか、結果と原因が離解している、ちゃんとケリがついていない。じゃ追体験でもするか…

ここからは僕の回想に入ります。かなり内輪ネタ満載ですが、わかる人はわかってください

10月18日夕方

NHKのスタジオ

歯学祭PRのため番組に出演。アナウンサーの安部さん（終わった後にすごくよかったと言ってくれました。貴重な体験をありがとうございました）と打ち合わせの後に本番。

このときに忙しいにもかかわらずたくさんのスタッフが集まってくれた。すごく感謝。人が集まったの仕事の爆発力を感じた瞬間でした。

新潟バイキング

歯学祭準備終了、そして飯を食う。僕はひつま

ぶしやら、から揚げやらをしこたま食った。そして寝込んだ…（歯学祭のスタッフにはかなり迷惑かけました。ごめんなさいでもほんとにありがたかったです）初めてでした、寝込んだのは。きちんと人間って過負荷だと自分自身から危険信号出してパタッとハングアップするんだなー（そのときの感想）。家でも親が作ってくれたから揚げを食べて風呂に入って倒れました。

泥ように眠るとはまさにこのこと。PM8時からAM6時まで昏倒しました。

10月19日 朝6時半

大学前

アド・ファーストの社長さんの作った広告看板が歯学部玄関にそびえたつを見て感動した。（社長さんありがとうございます。社長さんのような人柄の人に会えて僕はうれしかったです）そしてなぜか歯学祭の垂れ幕が外にすでにかかっている。これは何でだと思い学内へ通用門をとおつて侵入。そして小原氏と再会。そして学務の星野さん（ほんとにいろんなアドバイスと励ましありがとうございます。また何かあった宜しくお願ひしますね）が早めにきてもうやってくれたとの話。「それは無いよ」とか思いながらも感謝しつつ星野さんに挨拶をする。かぎを借りて歯学祭スタッ



フ控え室よりの部屋を開放。ぞくぞくと歯学祭のスタッフが到着。

午 前

講堂

真貝先生（面白くてためになる話どうもありがとうございました。僕も聞きましたが非常に興味深かったです。）の講演会開始。観客もたくさんはいつて大盛況のうちに終了。

司会者の方ご苦労様でした。非常にスムーズな講演ができたのは君たちのおかげです。

午後

とにかく走り回っているうちに午後になる。緊張したり、ぼんやりしたり、またインタビューとかもうけたりしてそれはもう怒濤の忙しさであった。

一日目終了

片付けつつ後夜祭の準備。

酒を冷やすための巨大な氷が用意され吃驚した

後夜祭

非常に盛り上がった

とてもよかった

特にスタッフの作った歯学祭ビデオは素敵だったよ

10月20日 講演会

講堂

今日は『かづきれいこ』さんの講演で非常に観客が集まった。立ち見が出てしまうほどで正直び



つくりしました。お話も大変面白くすばらしかったです。ありがとうございました。

子供づれのお客さんの子供をあやしてくれたスタッフの方、感謝です！

片付け

二年生、三年生、四年生総出で一気に片付けた。終わることは必ず迎えるのだが、終わってほしくない気持ちもある。そんな感慨にふけりながら、後始末。

その後

打ち上げ

いやああの時は飲んだね。泣いたり、笑ったり、怒ったりしたけど、みんなすごいよ。ほんとに、君たちがいてくれたから僕もがんばれた。ああこうやって人間って生きてゆくのかなって感じでした。

君たちと何かひとつのことをやることができ、すごくうれしかった。

・・・っとまた回想してました。でもいまではなんだか僕の中で少しはあのときの記憶が整理できたように思う。僕自身『歯学祭』の日々からここまで連続しているのは確かだし、僕の成長として根付いている、そんな気がします。

僕は偶然にこのポジションにつきました。今ではそれは必然だったような気がします。こんな日々を心のどこかで欲していた、こんな経験を望んでいたのかもしれませんが。

ここまで書いておきながらなんですが、今までの文章を読んで理解できましたか？ 多分できないと思うのですが、とにかく自分自身の心の整理のためいろいろと回想してきて、これを文章にして自分自身に刻み込もうと、こう思ったわけです。

はっきりいつてつらいことのほうが多かった。人間って何だろうね？ ってな感じで現実逃避ばかりしてました。でもやり遂げたことは事実だし、みんなとその時間を共有したのも事実です。それをまだやっぱり実感できません。その作業にはまだまだ時間がかかりそうです。この後僕は大学を卒業してどうなるのかわかりませんが、今回のように大きなイベントを行うことはあるかどうかかわかりません。またこのことを自分の中できちんとした形で思い出にできるかどうかともわかりま

せん。でもいつかは夜が必ず明けるように、いろいろな意味ででっかくなれるだろうし、またそれをめざしていこうと今おもいます。

なんだかへんてこすみませんが、これが今の歯

学祭に対する気持ちです。

最後にこのイベントにかかわったすべての人へ
…みんな最高だよ!!

